



み や ぎ

文化芸術レポート



令和8年4月「県民ロビーコンサートの舞台裏」

4月22日(水)、県庁ロビーには、開演の3時間前の朝9時から大勢の人が並び始めた。お目当ては毎月1回ランチタイムに開催される「県民ロビーコンサート」で、今回は約60名もの楽団員から編成された仙台フィルハーモニー管弦楽団によるオーケストラ演奏であることから人気が高く、待ちかねたファンの方々が続々と詰め掛けたという次第。開演直前ともなると、立ち見のお客様もどんどん増え、最終的には約700名のお客様をお迎えした。

県民ロビーコンサートは、県庁舎を県民に開かれたものとするとともに、県民への音楽鑑賞機会の提供・県内の音楽家の発表の機会提供を目的として、平成元年から開催されている。

県庁のロビーはコンサート会場としては音響や設備が十分に整っている訳ではない。それでも、毎回大勢の県民の皆様が楽しみにして駆けつけてくださる。30分という限られた時間の中であっても豊かで質の高い演奏を気軽に味わえるというのが好評の理由の一つで、リピーターとして通ってくださっている方々も多い。オーケストラは通常、舞台の上で演奏されることが多いが、ここでは間近に演奏を見ることができるとも楽しみの一つと言える。

そこで、今回、列に並ばれた観客の方々に県民ロビーコンサートについて感想を伺ってみたところ、以下のような声が寄せられたので、ご紹介しておきたい。

- 「昨年の仙フィル(※)の回は遅く来てしまったので、着席できなかった。今回は早めにといい、早めに友人と待ち合わせてきた。この2年くらい、ほぼ毎月楽しみにしてきている。チケット代を支払わなければならないコンサートにはなかなか行く機会がないが、こういう形で仙フィルが聞けるのはとても嬉しい。最初は、県政だよりでコンサートのことを知った。時間も30分で長すぎず短すぎず、ちょうど良いと思う。」
- 「この2年ほど、毎回、来ている。若者たちの演奏だとエネルギーをもらえるように感じる。最初は、別の用事で県庁に来たら、コンサートに大勢の人が来ていて、知った。それ以来、聞きに来るようになった。無料で楽しめるのも良い。」
- 「コンサートにやってきたのは初めて。奥様に誘われて今回初めて参加した。やはり、仙フィルが演奏するのを楽しみにしてきた。時間も30分ということで、お昼時にはちょうど良い長さ。」

※仙フィル：仙台フィルハーモニー管弦楽団の略称

仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏はモーツァルトの歌劇「フィガロの結婚」序曲から始まり、シュトラウス2世のワルツ「春の声」など春らしい華やかなラインナップで、最後のアンコールを含めた5曲が演奏され、大きな拍手があちこちから沸き上がった。

ところで、県民の皆様にはなかなか知られていない舞台裏についても記しておきたい。

この県民ロビーコンサートは、県内の企業の社会貢献活動によっても支えられている。仙台市に拠点を置く「杜の都信用金庫」様に今年度も継続してサポートしていただくことになり、開始前にネーミングライツスポンサーの披露式が執り行われた。

また、県民ロビーコンサートの運営や設営については、県職員と、就労支援団体「せんだい若者サポートステーション」に通う若者たちが観客用の椅子をセッティングし、一緒に観客をお迎えしており、このように多くの方々に支えられて、昼時の30分が実現しているのである。

次回も、5月27日(水)にフルートとピアノのデュオの演奏を予定しているので、多くのお客様にご来場していただきたい。(文責：菅野幸子)

